

7課

天国の市民権

2月14日

安息日午後

2月7日

暗証聖句

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。(ピリピ 4:6、口語訳)

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。(フィリピ 4:6、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ(ピリピ)3:17~4:23、Iコリント 15:42~44、ヨハネ 14:27、詩編(詩篇)119:165、ヨブ 1:21、Iテモテ 6:7

今週のテーマ

今週の学びは、フィリピの信徒への手紙(ピリピ人への手紙)の研究を締めくくるもので、日常生活に役立つ貴重な教訓と格言が詰まっています。使徒パウロの人生を導いた高い道徳的価値観の多くは、この書簡の最後の数節の中に見いだされるようです。人間の内面に焦点を合わせていたイエスの教えと同様、パウロが私たちに伝えているのは、喜びに満ちたクリスチヤン生活を送る秘訣です。

物事が思いどおりに進まないときでも(それは、私たちが望むよりも頻繁に起こりますが)、心配したり、不安になったり、落胆したりする必要はありません。それどころか、人生がもたらす困難に立ち向かうための内面的な強さを見いだすのに役立つ原則があり、それによって私たちは、神だけが与えることがおきになる安定した永続的な平和を経験することができるのです。現在も未来も神の御手の中にあり、神は、私たちが必要とするすべてのものを与えてくださいます。

最も重要なのは、私たちをいつも失望させる地上の政治制度に望みを託す必要がないという点です。私たちクリスチヤンは、神の天国の市民なのです。そして、その市民権には、すばらしい特権が伴います。また、責任も伴います。

私たちは誰もが、一度や二度は、尊敬し、見習いたいと思う人物を見つけたことがあるでしょう。子どもにとって、良い手本となる人物がいることは特に重要です。それが父親や母親であれば、理想的です。子どもたちは成長するにつれ、ほかの手本となる人物を見つけるでしょう。それは、彼らが選んだ職業に関連する人物や、彼らが読んだ伝記の中の人物かもしれません。また、聖書のさまざまな登場人物が困難にどう対処したかを学び、それを自分の人生経験と比較することもできます。

残念ながら、今日のメディアは悪い手本であふれています。私たちは、有名人の倫理的に問題のある話題や、めちゃくちゃな生き方を詳しく記したクリックベイト記事〔ウェブページの閲覧者にクリックさせるように気を引く記事〕にさらされています。フィリピ(ピリピ)におけるパウロの手紙の読者は、無論インターネットとは無縁でしたが、それでも同様の問題に直面していました。

事実、パウロが生きていた世界は、現代の私たちの世界と同様、非常に腐敗し、不道徳で、邪悪でした。これまでも、そしてこれからも、少なくとも終わりの日が来るまで、十分すぎるほどの悪が存在し続けるでしょう。私たちに問われているのは、それにどう対処するかということです。

問1 フィリピ(ピリピ)3:17～19を読んでください。この箇所では、良い手本と悪い手本となる人物がいかに説明されていますか。両者を区別するための鍵は何ですか。

私たちは、意見の合わない人々に対するパウロの愛を見逃してはなりません。パウロは彼らのために涙を流しています。また、パウロが彼らを**自分の敵**とは呼ばず、「キリストの十字架に敵対して歩んでいる者」〔口語訳「キリストの十字架に敵対して歩いている者」〕(フィリ[ビリ]3:18)と呼んでいる点にも注目してください。パウロは、はるかに大事なことが危機にさらされていることを認識していました。つまりそれは、十字架が隔ての壁を取り壊し、私たち全員を救い主を必要とする罪人として、同じレベルに置くということです(エフェ[エペ]2:11～14参照)。

また見逃せないのは、パウロがフィリピ(ピリピ)の信徒に、悪い模範ではなく、良い模範に目を向けるよう勧めている点です。彼自身を模範として歩んでいる人々を観察するよう勧めているのです。パウロはローマの信徒に、「不和やつまずきをもたらす人々を警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい」〔口語訳「分裂を引き起し、つまずきを与える人々を警戒し、かつ彼らから遠ざかるがよい」〕(ロマ16:17)と警告する際に似た表現を用いています。またローマの欺く者たちは、「キリストに仕えないで、自分の腹に仕えている」(同16:18)と評されています。

【参考】英語テキストにある文

Though, of course, Jesus is the only perfect pattern, there are others who, at least in certain areas, could be good role models. At the same time, what kind of role model do you present to others?

もちろん、イエスだけが完全な模範なのですが、少なくとも特定の分野においては、他にも良い手本となり得る人々が存在します。その一方で、あなたはどのような手本を他者に対して示していますか。

47

フィリ 3:17～19 (新共同訳)

3:17 兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。

3:18 何度も言ってきたし、今まで涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。

3:19 彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥すべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。

エphe 2:11～14 (新共同訳)

2:11 だから、心に留めておきなさい。あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり、いわゆる手による割礼を身に受けている人々からは、割礼のない者と呼ばれていました。

2:12 また、そのころは、キリストとかわりなく、イスラエルの民に属さず、約束を含む契約と関係なく、この世の中で希望を持たず、神を知らずに生きていました。

2:13 しかしながらあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。

2:14 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、

ロマ 16:17、18 (新共同訳)

16:17 兄弟たち、あなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに反して、不和やつまずきをもたらす人々を警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。

ピリ 3:17～19 (口語訳)

3:17 兄弟たちよ。どうか、わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならつて歩く人たちに、目をとめなさい。

3:18 わたしがそう言うのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今まで涙を流して語る。

3:19 彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。

エペ 2:11～14 (口語訳)

2:11 だから、記憶しておきなさい。あなたがたは以前には、肉によれば異邦人であって、手で行った肉の割礼ある者と称せられる人々からは、無割礼の者と呼ばれており、

2:12 またその当時は、キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であった。

2:13 ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。

2:14 キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、

ロマ 16:17、18 (口語訳)

16:17 さて兄弟たちよ。あなたがたに勧告する。あなたがたが学んだ教にそむいて分裂を引き起し、つまずきを与える人々を警戒し、かつ彼らから遠ざかるがよい。

16:18 こういう人々は、わたしたちの主であるキリストに仕えないで、自分の腹に仕えている。そして、うまい言葉やへつらいの言葉によって純朴な人々の心を欺いているのです。

16:18 なぜなら、こうした人々は、わたしたちの主キリストに仕えないで、自分の腹に仕え、そして甘言と美辞とをもって、純朴な人々の心を欺く者どもだからである。

月曜日 2月9日 「主に堅く立つ」〔フィリ(ピリ)4:1 参照〕

問2 フィリピ(ピリピ) 3:20、21 を読んでください。パウロはクリスチャンの「本国」〔口語訳「国籍」〕がどのようなものであるかを、いかに生き生きと説明していますか

「この世のことしか考え(ず)」〔口語訳「彼らの思いは地上のこと」〕、自分の腹よりも偉大な神を持たない十字架の敵たち(フィリ(ピリ)3:19)とは異なり、クリスチャンの本国は天にあり、私たちの支配者はイエス・キリストご自身です。パウロはこの点を明示するために、病気や衰えや死の影響を受ける「わたしたちの卑しい体」〔口語訳「わたしたちの卑しいからだ」〕(同3:21)が、キリストの栄光ある復活の体のように変えられる必要があると強調しています。

問3 次の聖句は、栄光の状態をいかに描写していますか。

- (1) ヨブ 19:25～27
- (2) ルカ 24:39
- (3) Iコリント 15:42～44
- (4) Iコリント 15:50～54
- (5) コロサイ 3:4

最終的に、「最後の敵」(Iコリ15:26)である死は、イエスによって滅ぼされます。それは、私たちの最大の希望であり、イエスにおいて与えられた究極の約束です。死が終わるだけでなく、「栄光ある体」〔口語訳「栄光のからだ」〕(フィリ(ピリ)3:21)というまったく新しい体さえも与えられるのです。

神なしで「救い」を見いだす方法についての本を書き、死の恐怖を克服することが「救い」であると愚かにも主張した著者のリュック・フェリーは、それでも次のように認めています。「(キリスト教は)私たちが死の恐怖を乗り越えるだけでなく、死そのものに打ち勝つことを可能にする。しかも匿名的または抽象的にではなく、個人のアイデンティティーを保ちながらそうするという意味で、キリスト教は、死すべき存在である私たちの状態に対して、個人の不滅という真に決定的な勝利をもたらす唯一の宗教思想であるように思われる」(『思想史概略』90ページ、英文)。無神論者にしては、かなり大胆な告白です。

【参考】Ferry, A Brief History of Thought (New York: HarperCollins, 2011, Kindle edition), p. 90.

“enables us not only to transcend the fear of death, but also to beat death itself. And by doing so in terms of individual identity, rather than anonymity or abstraction, it seems to be the only version that offers a truly definitive victory of personal immortality over our condition as mortals.”

パウロにとって、私たちの天国の市民権には、今はほとんど想像しがたいまったく新しい存在における復活と永遠の命という約束が含まれているのです。

【参考】英語テキストにある続きの文

Why is the promise of eternal life so crucial to all that we believe? What could this world possibly offer that's worth forfeiting what Christ offers us?

永遠の命の約束は、私たちの信仰すべてにとって、なぜそれほど重要なのでしょうか。キリストが私たちに与えてくださるものを手放すに価するほど、この世が提供できるものなどあるでしょうか。

48

フィリ 4:1 (新共同訳)

4:1だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によつてしっかりと立ちなさい。

フィリ 3:19～21 (新共同訳)

3:19彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。3:20しかし、わたしたちの本邦は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。

3:21キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

ヨブ 19:25～27 (新共同訳)

19:25わたしは知っている/わたしを贖う方は生きておられ/ついには塵の上に立たれるであろう。

19:26この皮膚が損なわれようとも/この身をもって/わたしは神を仰ぎ見るであろう。

19:27このわたしが仰ぎ見る/ほかならぬこの目で見る。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る。

ルカ 24:39 (新共同訳)

24:39わたしの手や足を見なさい。まさ

ピリ 4:1 (口語訳)

4:1だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。このように、主にあつて堅く立ちなさい。

ピリ 3:19～21 (口語訳)

3:19彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。

3:20しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。

3:21彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。

ヨブ 19:25～27 (口語訳)

19:25わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

19:26わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。

19:27しかもわたしの味方として見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。わたしの心はこれを望んでこがれる。

ルカ 24:39 (口語訳)

24:39わたしの手や足を見なさい。まさ

しくわたしだ。触ってよく見なさい。亡靈には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある。」

Iコリ 15:42～44 (新共同訳)

15:42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、

15:43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときは弱いものでも、力強いものに復活するのです。

15:44 つまり、自然の命の体が蒔かれて、靈の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、靈の体もあるわけです。

Iコリ 15:50～54 (新共同訳)

15:50 兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。

15:51 わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今は異なる状態に変えられます。

15:52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

15:53 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。

15:54 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。「死は勝利にのみ込まれた。

コロ 3:4 (新共同訳)

3:4 あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

Iコリ 15:26 (新共同訳)

15:26 最後の敵として、死が滅ぼされます。

しくわたしなのだ。さわって見なさい。靈には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」

Iコリ 15:42～44 (口語訳)

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、

15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、

15:44 肉のからだでまかれ、靈のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのであるのだから、靈のからだもあるわけである。

Iコリ 15:50～54 (口語訳)

15:50 兄弟たちよ。わたしはこの事を言っておく。肉と血とは神の国を継ぐことができないし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。

15:51 ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。

15:52 というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。

15:53 なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。

15:54 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。

コロ 3:4 (口語訳)

3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう。

Iコリ 15:26 (口語訳)

15:26 最後の敵として滅ぼされるのが、死である。

火曜日 2月10日 主において常に喜びなさい [フィリ(ピリ)4:4 参照]

口語訳:主にあっていつも喜びなさい

問4 フィリピ(ピリピ)4:4~7を読んでください。私たちは、いかにして「神の平和」(口語訳「神の平安」)を体験するのでしょうか。

再び一致の必要性に触れたあと(フィリ(ピリ)4:1~3)、パウロは別の主題について述べています。それは、主において喜ぶことです(同4:4~7)。

あなたは、あらわれてはすぐに消えていった心配事に、どれほど多くのストレスを感じてきたことでしょうか。正当な理由があるからこそ、イエスは、「思い悩むな」[口語訳「思いわざらうな」](マタ6:25~34、10:19参照)と繰り返し強調されました。また、ペトロ(ペテロ)は、「思い煩い(思いわざらい)を何もかも主にゆだねることができる」と思い起こさせています。「神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるから」[口語訳「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから」](Iペト5:7)です。実際、世界中で問題が増えていることは、主の来臨が近いという希望を私たちに抱かせるはずです(マタ24:33、ルカ21:28、ヤコ5:8と比較)。

あらゆることにおける不安を解消する方法は、信仰の祈りをささげることです(フィリ(ピリ)4:6、7)。私たちは、祈りが実現するのを見る前から、祈りが聞かれたと信じ、行動しなければなりません。「感謝を込めて」[口語訳「感謝をもって」]祈るよう勧められているからです。また、「願い」(ギリシア語で「デエーシス」という言葉が付け加えられており、それは困り切った時や緊急を要する時を示唆しています(例えば、ルカ1:13、フィリ(ピリ)1:19、I テモ5:5、ヤコ5:16参照))。私たちの祈りはあくまで「願い」にすぎませんが、「神の御心に適うこと」を願う[口語訳「神の御旨に従って」願う](Iヨハ5:14)限り、その嘆願が受け入れられていることを知ることができます。そうすれば、私たちの願いは神の御手の中にあると知り、安らぎと平和(平安)を得ることができます。

問5 次の聖句は、神の平和(平安)についての私たちの理解をいかに広げますか(詩編[詩篇]29:11、イザ9:5(口語訳9:6)、ルカ2:14、ヨハ14:27、Iコリ14:33)。

神の平和(平安)は、この世が決してもたらすことのできないものです。なぜなら、神の平和(平安)は、私たちが救い主イエスによって永遠の命という賜物を得ているという確信から来るものだからです(ロマ5:1、6:23)。この平和(平安)は人生のあらゆる側面に影響を及ぼし、「あらゆる人知を超える」[口語訳「人知ではどうてい測り知ることのできない」](フィリ(ピリ)4:7)のです。ここでギリシア語の「ヌース」(英語:minds)(「心、霊的理解力」)という言葉が用いられていることが示すように、それは知性だけで把握できるものではありません。

【参考】↑この部分は英語テキストでは問5の後の本文です。

【参考】英語テキストにある文

How would you describe to someone what it means to experience “the peace of God”?

「神の平和」〔口語訳「神の平安」〕を体験するとはどういうことなのか、あなたはどのように説明しますか。

49

フィリ 4:1～7 (新共同訳)

4:1 だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

4:2 わたしはエボディアに勧め、またシンティケに勧めます。主において同じ思いを抱きなさい。

4:3 なお、眞実の協力者よ、あなたにもお願ひします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名を記されているクレメンスや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。

4:4 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

4:5 あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。

4:6 どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。

4:7 そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

マタ 6:25～34 (新共同訳)

6:25 「だから、言っておく。自分の命のことでのを食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことでのを着ようかと思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。

6:26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもししない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養つくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。

ピリ 4:1～7 (口語訳)

4:1 だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。このように、主にあって堅く立ちなさい。

4:2 わたしはユウオデヤに勧め、またスントケに勧める。どうか、主にあって一つ思いになってほしい。

4:3 ついては、眞実な協力者よ。あなたにお願いする。このふたりの女を助けてあげなさい。彼らは、「いのちの書」に名を書きとめられているクレメンスや、その他の同労者たちと協力して、福音のためにわたしと共に戦ってくれた女たちである。

4:4 あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

マタ 6:25～34 (口語訳)

6:25 それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことでのを思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことでのを思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養つさせて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者で

6:27 あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。

6:32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。

6:33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

6:34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

マタ 10:19 (新共同訳)

10:19 引き渡されたときは、何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。

I ベト 5:7 (新共同訳)

5:7 思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。

マタ 24:33 (新共同訳)

24:33 それと同じように、あなたがたは、これらすべてのことを見たなら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。

ルカ 21:28 (新共同訳)

21:28 このようなことが起り始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近いからだ。」

はないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのはみなの、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。

マタ 10:19 (口語訳)

10:19 彼らがあなたがたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。

I ベト 5:7 (口語訳)

5:7 神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。

マタ 24:33 (口語訳)

24:33 そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

ルカ 21:28 (口語訳)

21:28 これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから」。

ヤコ 5:8 （新共同訳）

5:8 あなたがたも忍耐しなさい。心を強く保ちなさい。主が来られる時が迫っているからです。

ルカ 1:13 （新共同訳）

1:13 天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。

フィリ 1:19 （新共同訳）

1:19 というのは、あなたがたの祈りと、イエス・キリストの靈の助けとによって、このことがわたしの救いになると知っているからです。

I テモ 5:5 （新共同訳）

5:5 身寄りがなく独り暮らしのやもめは、神に希望を置き、昼も夜も願いと祈りを続けますが、

ヤコ 5:16 （新共同訳）

5:16 だから、主にいやしていただくなめに、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。

I ヨハ 5:14 （新共同訳）

5:14 何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。

詩 29:11 （新共同訳）

29:11 どうか主が民に力をお与えになるように。主が民を祝福して平和をお与えになるように。

イザ 9:5 （新共同訳）

9:5 ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神永遠の父、平和の君」と唱えられる。

ルカ 2:14 （新共同訳）

2:14 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

ヨハ 14:27 （新共同訳）

14:27 わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではな

ヤコ 5:8 （口語訳）

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

ルカ 1:13 （口語訳）

1:13 そこで御使が彼に言った、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が聞き入れられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。

ピリ 1:19 （口語訳）

1:19 なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・キリストの靈の助けとによって、この事がついには、わたしの救となることを知っているからである。

I テモ 5:5 （口語訳）

5:5 真にたよりのない、ひとり暮らしのやもめは、望みを神において、日夜、たえず願いと祈とに専心するが、

ヤコ 5:16 （口語訳）

5:16 だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。

I ヨハ 5:14 （口語訳）

5:14 わたしたちが神に対していだいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞き入れて下さるということである。

詩 29:11 （口語訳）

29:11 主はその民に力を与え、平安をもってその民を祝福されるであろう。

イザ 9:6 （口語訳）

9:6 ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「靈妙なる議士、大能の神、どこしえの父、平和の君」ととなえられる。

ルカ 2:14 （口語訳）

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

ヨハ 14:27 （口語訳）

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与える

い。心を騒がせるな。おびえるな。

Iコリ 14:33 (新共同訳)

14:33 神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。聖なる者たちのすべての教会でそうであるように、

ロマ 5:1 (新共同訳)

5:1 このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、

ロマ 6:23 (新共同訳)

6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

ようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

Iコリ 14:33 (口語訳)

14:33 神は無秩序の神ではなく、平和の神である。聖徒たちのすべての教会で行われているように、

ロマ 5:1 (口語訳)

5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

ロマ 6:23 (口語訳)

6:23 罪が支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

水曜日 2月11日 それを心に留めなさい [フィリ(ピリ)4:8 参照]

口語訳: それらのものを心にとめなさい

人知を超えるその平和(口語訳: 人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安)は、「あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう」[口語訳「あなたがたの心と思想とを、キリスト・イエスにあって守るであろう」](フィリ(ピリ)4:7)。私たちの内面的な生活は、保護を必要としています。興味深いことに、フィリピ(ピリビ)4:7は、神の平和(平安)に関連して軍事的な比喩を用いています。「[「守る」に相当する]「フロウレオー」というギリシア語は、侵略から町を防御する守備隊を描くために用いられる動詞です(IIコリ 11:32、使徒 9:24と比較)。

内なる平和(平安)のもう一つのとても重要な側面は、神の御心に調和して生きることです。「あなたの律法を愛する人には豊かな平和があり/つまずかせるものはありません」[口語訳「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません」](詩編[詩篇]119:165)。

問6 フィリピ(ピリビ)4:8、9を読んでください。具体的にどのような行動が勧められていますか。

パウロはフィリピ(ピリビ)4:8、9を、「終わりに」[口語訳「最後に」]という言葉で始め、六つの美德のリストを挙げ、続いてそれらを簡潔に要約し、彼の模範に倣うよう勧めています。この異文化間の最後の奨励は、美德と模範の両方に重点が置かれていたフィリピ(ピリビ)のギリシア・ローマ的環境によく適合しています。しかし興味深いことに、その焦点は聖書的な美德であり、それは、パウロがギリシアの四つの主要な美德(思慮、正義、節制、勇気)を省いていることから明らかです。

- (1) 真実なこと——偶然ではなく、このリストは、聖書の主要な美德である真実から始まっており、イエス(“Truly, I say . . .” 「まことに、わたしは言います……」、新共同訳「はっきり言っておく」、口語訳「よくよくあなたがたに言っておく」〔ヨハ 5:24、8:58など〕)と新約聖書全体がそれを頻繁に強調しています(例えば、使徒26:25、ロマ1:18、I コリ13:6、II コリ4:2、エフェ4:15、I テモ3:15、ヤコ1:18、I ペト〔ペテ〕1:22、I ヨハ2:21参照)。
- (2) 気高いこと(尊ぶべきこと)——このギリシア語は、個人の美德を指しています(I テモ 3:8、11、テト 2:2 と比較。そこでは、「品位のある」〔口語訳「謹厳で」〕と訳されている)。
- (3) 正しいこと——この美德は、神の義なるご性質によって規定されます(フィリ 1:7 での用い方と比較)。
- (4) 清いこと(純真なこと)——信仰によって与えられた神の義から生じる考え方や行動(I ヨハ 3:3 参照)。
- (5) 愛すべきこと——神の被造物に広く見られる、心を打つ美しさ。
- (6) 名誉なこと(ほまれあること)——「親切で、快活で、慈悲深いこと」(英訳、“kind and winsome and gracious”〔AMPC〕)。

パウロは、これらの美德に異教的な意味が付与されないように、さらに二つの条件——「徳や称賛に価すること」〔口語訳「徳といわれるもの、称賛に値するもの」〕(フィリ〔ピリ〕4:8)——を加えています。

【参考】最後の段落の英文を記載します。(赤字が日本語テキストでカットされた部分)

Paul gives two further qualifications, lest a pagan meaning be imputed to any of these virtues: “If anything is excellent or praiseworthy” (Phil. 4:8, NIV), **we are to think on these heavenly virtues. Then, to remove all doubt and potential misunderstanding, Paul calls us to practice what we have learned, received, heard, and seen from his own example (Phil. 4:9)**

パウロは、これらの美德に異教的な意味が付与されないように、さらに二つの条件——「徳や称賛に価すること**があれば**」〔口語訳「徳といわれるもの、称賛に値するもの**があれば**」〕(フィリ〔ピリ〕4:8)、私たちはこれらの天の美德を心に留めるべきであること。そして、あらゆる疑惑や誤解を取り除くために、パウロは私たちに、彼自身の模範から「学んだこと、受けたこと、……聞いたこと、見たことを実行しなさい」〔口語訳「学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい」〕(フィリ〔ピリ〕4:9)との求め——を加えています。

50

フィリ 4:7 (新共同訳)

4:7 そうすれば、あらゆる人知を超える
神の平和が、あなたがたの心と考えを
キリスト・イエスによって守るでしょう。

ピリ 4:7 (口語訳)

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り
知ることのできない神の平安が、あなた
がたの心と思いとを、キリスト・イエス
にあって守るであろう。

IIコリ 11:32 (新共同訳)

11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕らえようとして、ダマスコの人たちの町を見張っていたとき、

使徒 9:24 (新共同訳)

9:24 この陰謀はサウロの知るところとなった。しかし、ユダヤ人は彼を殺そうと、昼夜も夜も町の門で見張っていた。

詩 119:165 (新共同訳)

119:165 あなたの律法を愛する人には豊かな平和があり/つまずかせるものはありません。

フィリ 4:8, 9 (新共同訳)

4:8 終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値するがあれば、それを心に留めなさい。

4:9 わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

ヨハ 5:24, 8:58 (新共同訳)

5:24 はっきり言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。

8:58 イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」

使徒 26:25 (新共同訳)

26:25 パウロは言った。「フェストゥス閣下、わたしは頭がおかしいわけではありません。真実で理にかなったことを話しているのです。

ロマ 1:18 (新共同訳)

1:18 不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。

Iコリ 13:6 (新共同訳)

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

IIコリ 4:2 (新共同訳)

4:2 かえって、卑劣な隠れた行いを捨て、

IIコリ 11:32 (口語訳)

11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕えるためにダマスコ人の町を監視したことがあったが、

使徒 9:24 (口語訳)

9:24 ところが、その陰謀が彼の知るところとなった。彼らはサウロを殺そうとして、夜昼、町の門を見守っていたのである。

詩 119:165 (口語訳)

119:165 あなたのおきてを愛する者には大きいなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません。

ピリ 4:8, 9 (口語訳)

4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれであること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

4:9 あなたがたが、わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい。そうすれば、平和の神が、あなたがたと共にいますであろう。

ヨハ 5:24, 8:58 (口語訳)

5:24 よくよくあなたがたに言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け、またさばかれることがなく、死から命に移っているのである。

8:58 イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである。」

使徒 26:25 (口語訳)

26:25 パウロが言った、「フェスト閣下よ、わたしは気が狂ってはいません。わたしは、まじめな真実の言葉を語っているだけです。

ロマ 1:18 (口語訳)

1:18 神の怒りは、不義をもって真理をはばもうとする人間のあらゆる不信心と不義とに対して、天から啓示される。

Iコリ 13:6 (口語訳)

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

IIコリ 4:2 (口語訳)

4:2 恥ずべき隠れたことを捨て去り、悪

悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます。

I フエ 4:15 (新共同訳)

4:15 むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。

I テモ 3:15 (新共同訳)

3:15 行くのが遅れる場合、神の家でどのように生活すべきかを知つてもらいたいのです。神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です。

ヤコ 1:18 (新共同訳)

1:18 御父は、御心のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。

I ペト 1:22 (新共同訳)

1:22 あなたがたは、真理を受け入れて、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合ひなさい。

I ヨハ 2:21 (新共同訳)

2:21 わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知り、また、すべて偽りは真理から生じないことを知っているからです。

I テモ 3:8 (新共同訳)

3:8 同じように、奉仕者たちも品位のある人でなければなりません。二枚舌を使わず、大酒を飲まず、恥すべき利益をむさぼらず、

I テモ 3:11 (新共同訳)

3:11 婦人の奉仕者たちも同じように品位のある人でなければなりません。中傷せず、節制し、あらゆる点で忠実な人でなければなりません。

テト 2:2 (新共同訳)

2:2 年老いた男には、節制し、品位を保ち、分別があり、信仰と愛と忍耐の点で健全であるように勧めなさい。

フィリ 1:7 (新共同訳)

1:7 わたしがあなたがた一同についてどのように考えるのは、当然です。というのは、監禁されているときも、福音を弁

巧みによって歩かず、神の言を曲げず、真理を明らかにし、神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。

I ペ 4:15 (口語訳)

4:15 愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。

I テモ 3:15 (口語訳)

3:15 万一わたしが遅れる場合には、神の家でいかに生活すべきかを、あなたに知つてもらいたいからである。神の家というのは、生ける神の教会のことであって、それは真理の柱、真理の基礎なのである。

ヤコ 1:18 (口語訳)

1:18 父は、わたしたちを、いわば被造物の初穂とするために、真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである。

I ペテ 1:22 (口語訳)

1:22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛をいだくに至ったのであるから、互に心から熱く愛し合ひなさい。

I ヨハ 2:21 (口語訳)

2:21 わたしが書きおくったのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。

I テモ 3:8、11 (口語訳)

3:8 れと同様に、執事も謹厳であって、二枚舌を使わず、大酒を飲まず、利をむさぼらず、

I テモ 3:11 (口語訳)

3:11 女たちも、同様に謹厳で、他人をそしらず、自らを制し、すべてのことに忠実でなければならない。

テト 2:2 (口語訳)

2:2 老人たちには自らを制し、謹厳で、慎み深くし、また、信仰と愛と忍耐とにおいて健全であるように勧め、

ピリ 1:7 (口語訳)

1:7 わたしが、あなたがた一同のために、そう考えるのは当然である。それは、わたしが獄に捕われている時にも、福音を

明し立証するときも、あなたがた一同のことを、共に恵みにあずかる者と思って、心に留めているからです。

Iヨハ 3:3 (新共同訳)

3:3 御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。

弁明し立証する時にも、あなたがたをみな、共に恵みにあずかる者として、わたしの心に深く留めているからである。

Iヨハ 3:3 (口語訳)

3:3 彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がよくあられるように、自らをきよくする。

木曜日 2月12日 満足の鍵

問7 フィリピ(ピリピ)4:10~13、19を読んでください。パウロは、満足で幸せな人生のために、どのような鍵を明らかにしていますか。

極限の状況(飢え、病気、怪我、喪失)に見舞われるとき、人は本当に大切なものについて考え始め、普段は当然だと思っている祝福をあらためて意識するようになります。私たちが「低くされ」(フィリ[ピリ]4:12、英訳 *ESV*)、「困窮し」(同、英別訳 *NIV*)、「ほとんど何もない」(同、英別訳 *NLT*)状態に置かれたときこそ、信仰が力を発揮するときです。

逆に、「繁栄して暮らす」(フィリ[ピリ]4:12、英訳 *NASB*)ときも、それが一瞬にして消え去る可能性があることを常に認識しておくべきです(箴23:5参照)。ヨブとパウロが私たちに思い起こさせているように、私たちは生まれたとき、この世に何も持て来ず、また墓場まで何も持って行くことがありません(ヨブ1:21、Iテモ6:7)。

次の聖書の約束に注目してください。

- 詩編(詩篇)23:1——「主は羊飼い、わたしは何も欠けることがない」〔口語訳「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない」〕
- マタイ6:32——「あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである」〔口語訳「あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである」〕
- Iペトロ(ペテロ)5:7——「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです」〔口語訳「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい」〕
- フィリピ(ピリピ)4:19——「わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます」〔口語訳「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう」〕

そして何よりもすばらしいのは、「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」〔口語訳「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすること

ができる」](フィリ[ピリ]4:13)という約束です。おそらく、私たちの誰もが、この「すべて」〔口語訳「何事でも」〕が何を意味するのかを完全に理解はできないでしょう。確かに、神の助ける力を求めるときはいつもそうであるように、神の御心に従って求めなければなりません。しかし多くの場合、私たちは神の御心にかなうとわかつていることさえ求めません。それゆえ、ヤコブ4:2は、「得られないのは、願い求めないからで(す)」〔口語訳「あなたがたは、求めないから得られないのだ」と言っています。

神の御心に一致しているとわかっているので、私たちが自信を持って求めることのできるものがいくつかあります。●愛する人や友人の救い(Iテモ2:3,4)。●信仰を伝える勇気(黙22:17)。●過ちを告白して捨て去るときの赦[ゆる]し(Iヨハ1:9)。●神の戒めに従う力(ヘブ13:20,21)。●私たちを憎み、虐待する人々への愛(マタ5:44)。●困難な状況に対する知恵(ヤコ1:5)。●神の言葉の真理を理解する力(ヨハ8:32)。

【参考】英語テキストにある文

How do you deal with the things that you have prayed for that have not yet come, or perhaps might never come?

祈ったのにまだかなえられないこと、あるいはおそらく決して実現しないかもしれないことについて、あなたはどのように対処しますか。

51

フィリ 4:10～19 (新共同訳)

4:10 さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今まで思はあっても、それを表す機会がなかったのでしょう。

4:11 物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。
4:12 貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。

4:13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

4:14 それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。

4:15 ピリピの人たち、あなたがたも知っているとおり、わたしが福音の宣教の初めにマケドニア州を出たとき、もののや

ピリ 4:10～19 (口語訳)

4:10 さて、わたしが主にあって大いに喜んでいるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。

4:11 わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。

4:12 わたしは貧に処する道を知っており、富にある道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。

4:13 わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。

4:14 しかし、あなたがたは、よくもわたしと患難を共にしてくれた。

4:15 ピリピの人たちよ。あなたがたも知っているとおり、わたしが福音を宣伝し始めたころ、マケドニアから出かけて行

り取りでわたしの働きに参加した教会はあなたがたのほかに一つもありませんでした。

4:16 また、テサロニケにいたときにも、あなたがたはわたしの窮乏を救おうとして、何度も物を送ってくれました。

4:17 贈り物を当てにして言うわけではありません。むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望んでいるのです。

4:18 たしはあらゆるものを受けしており、豊かになっています。そちらからの贈り物をエパフロディトから受け取って満ち足りています。それは香ばしい香りであり、神が喜んで受けてくださるいにえです。

4:19 わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます。

【参考】フィリピ(ピリピ)4:12 英語聖書の各バージョン

Phil. 4:12, ESV

4:12 I know how to be **brought low**, and I know how to abound. In any and every circumstance, I have learned the secret of facing plenty and hunger, abundance and need.

[直訳] 私は、低くされることも、豊かにされることも知っています。どんな状況においても、満ち足りた時も飢えた時も、豊かさも貧しさも、それらに向き合う秘訣を学んだのです。

Phil. 4:12, NIV

4:12 I know how to live on **almost nothing** or with everything. I have learned the secret of living in every situation, whether it is with a full stomach or empty, with plenty or little.

[直訳] 私はほとんど何もない中で生きることも、何もある中で生きることも知っている。満腹の時も空腹の時も、豊かでも貧しくても、あらゆる状況で生き抜く秘訣を学んだのです。

フィリ 4:12 (新共同訳)

4:12 貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。

った時、物のやりとりをしてわたしの働きに参加した教会は、あなたがたのほかには全く無かった。

4:16 またテサロニケでも、一再ならず、物を送ってわたしの欠乏を補ってくれた。

4:17 わたしは、贈り物を求めているのではない。わたしの求めているのは、あなたがたの勘定をふやしていく果実なのである。

4:18 わたしは、すべての物を受けてあり余るほどである。エパフロディトから、あなたがたの贈り物をいただきて、飽き足りている。それは、かんばしいかおりであり、神の喜んで受けて下さる供え物である。

4:19 わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう。

Phil. 4:12, NIV

4:12 I know what it is to be **in need**, and I know what it is to have plenty. I have learned the secret of being content in any and every situation, whether well fed or hungry, whether living in plenty or in want.

[直訳] 私は困窮していることも、富んでいることも、どういうことか知っています。満ち足りていても飢えていても、豊かであろうと貧乏であろうと、どんな状況でも満足する秘訣を私は学びました。

Phil. 4:12, NASB

4:12 I know how to get along with little, and I also know how to live **in prosperity**; in any and every **circumstance** I have learned the secret of being filled and going hungry, both of having abundance and suffering need.

[直訳] 私は質素に暮らす術を知っているし、繁栄して暮らす術も知っている。どんな状況でも、満ち足りることも飢えることも、富むことも困窮することも、その秘訣を私は学んできたのです。

ピリ 4:12 (口語訳)

4:12 わたしは貧に処する道を知っており、富にある道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。

箴 23:5 (新共同訳)

23:5 目をそらすや否や、富は消え去る。
鷺のように翼を生やして、天に飛び去る。

ヨブ 1:21 (新共同訳)

1:21 「わたしは裸で母の胎を出た。裸で
そこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主
の御名はほめたたえられよ。」

I テモ 6:7 (新共同訳)

6:7 なぜならば、わたしたちは、何も持た
ず世に生まれ、世を去るときは何も持
って行くことができないからです。

詩 23:1 (新共同訳)

23:1 【賛歌。ダビデの詩。】主は羊飼い、
わたしには何も欠けることがない。

マタ 6:32 (新共同訳)

6:32 それはみな、異邦人が切に求めてい
るものだ。あなたがたの天の父は、これ
らのものがみなあなたがたに必要なこと
をご存じである。

I ペト 5:7 (新共同訳)

5:7 思い煩いは、何もかも神にお任せし
なさい。神が、あなたがたのことを心に
かけていてくださるからです。

フィリ 4:19 (新共同訳)

4:19 わたしの神は、御自分の栄光の富に
応じて、キリスト・イエスによって、あ
なたがたに必要なものをすべて満たして
くださいます。

フィリ 4:13 (新共同訳)

4:13 わたしを強めてくださる方のお陰
で、わたしにはすべてが可能です。

ヤコ 4:2 (新共同訳)

4:2 あなたがたは、欲しても得られず、人
を殺します。また、熱望しても手に入れ
ることができず、争ったり戦ったりしま
す。得られないのは、願い求めないから
で、

I テモ 2:3, 4 (新共同訳)

2:3 これは、わたしたちの救い主である
神の御前に良いことであり、喜ばれるこ
とです。

2:4 神は、すべての人々が救われて真理
を知るようになることを望んでおられま
す。

箴 23:5 (口語訳)

23:5 あなたの目をそれにとめると、それ
はない、富はたちまち自ら翼を生じて、
わしのように天に飛び去るからだ。

ヨブ 1:21 (口語訳)

1:21 そして言った、「わたしは裸で母の
胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主
が与え、主が取られたのだ。主のみ名は
ほむべきかな。」

I テモ 6:7 (口語訳)

6:7 わたしたちは、何ひとつ持たないで
この世にきた。また、何ひとつ持たないで
この世を去って行く。

詩 23:1 (口語訳)

23:1 主はわたしの牧者であって、わた
しには乏しいことがない。

マタ 6:32 (口語訳)

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に
求めているものである。あなたがたの天
の父は、これらのがみが、ことごとくあ
なたがたに必要であることをご存じであ
る。

I ペテ 5:7 (口語訳)

5:7 神はあなたがたをかれりみていて下
さるのであるから、自分の思いわずらい
を、いっさい神にゆだねるがよい。

ピリ 4:19 (口語訳)

4:19 わたしの神は、ご自身の栄光の富の
中から、あなたがたのいっさいの必要を、
キリスト・イエスにあって満たして下さ
るであろう。

ピリ 4:13 (口語訳)

4:13 わたしを強くして下さるかたによつ
て、何事でもすることができる。

ヤコ 4:2 (口語訳)

4:2 あなたがたは、むさぼるが得られな
い。そこで人殺しをする。熱望するが手
に入れることができない。そこで争い戦
う。あなたがたは、求めないから得られ
ないので。

I テモ 2:3, 4 (口語訳)

2:3 これは、わたしたちの救主である神
のみまえに良いことであり、また、みこ
ころにかなうことである。

2:4 神は、すべての人が救われて、真理を
悟るに至ることを望んでおられる。

黙 22:17 （新共同訳）

22:17 “靈”と花嫁とが言う。「来てください。」これを聞く者も言うがよい、「来てください」と。渴いている者は来るがよい。命の水が欲しい者は、価なしに飲むがよい。

I ヨハ 1:9 （新共同訳）

1:9 自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

ヘブ 13:20、21 （新共同訳）

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、

13:21 御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてくださり、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるように。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。

マタ 5:44 （新共同訳）

5:44 しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

ヤコ 1:5 （新共同訳）

1:5 あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。

ヨハ 8:32 （新共同訳）

8:32 あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

黙 22:17 （口語訳）

22:17 御靈も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいでいる者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。

I ヨハ 1:9 （口語訳）

1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

ヘブ 13:20、21 （口語訳）

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、

13:21 イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようについ願う。栄光が、世々限りなく神にあるよう、アーメン。

マタ 5:44 （口語訳）

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

ヤコ 1:5 （口語訳）

1:5 あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ヨハ 8:32 （口語訳）

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」

金曜日 2月13日 さらなる研究

「絶えず新たに恵みの供給を受けている人だけが、日々の必要に見合う力とその力を使う能力を得るのである。彼らは、靈的な力を特別に賦与されることで、魂を獲得するための奇跡的な準備がなされる未来を待ち望むのではなく、日々神に身を委ね、神が彼らを用いてくださるのにふさわしい器とさせていただいているのである。彼らは日々、自分の手の届く範囲にある奉仕の機会を活用している。家庭でのささやかな労働の場であろうと、公共の役に立つ場であろうと、彼らはどこ

にいても、日々主のために証しているのである。

献身した働き人にとって、キリストさえ、地上での生涯の間、必要な恵みを日々新たに与えてくださいと父なる神に求められ、神とこのような交わりをされてから、ほかの人々を励まし、祝福するために出て行かれたということを知るのは、すばらしい慰めである。キリストの模範に従うすべての働き人は、実った地上の穀物のために神がご自分の教会に約束された力を受け、用いる準備がなされるだろう」(『神の驚くべき恵み』117 ページ、英文)。

【参考】——Ellen G. White, God's Amazing Grace, p. 117.

“Those only who are constantly receiving fresh supplies of grace, will have power proportionate to their daily need and their ability to use that power. Instead of looking forward to some future time when, through a special endowment of spiritual power, they will receive a miraculous fitting up for soul winning, they are yielding themselves daily to God, that He may make them vessels meet for His use. Daily they are improving the opportunities for service that lie within their reach. Daily they are witnessing for the Master wherever they may be, whether in some humble sphere of labor in the home, or in a public field of usefulness. “To the consecrated worker there is wonderful consolation in the knowledge that even Christ during His life on earth sought His Father daily for fresh supplies of needed grace; and from this communion with God He went forth to strengthen and bless others. . . . “Every worker who follows the example of Christ will be prepared to receive and use the power that God has promised to His church for the ripening of earth’s harvest.”

「神は私たちの欠乏を知り、それのために備えておられる。神はご自分の子らのために補給庫を持ち、あらゆる状況において彼らの必要を満たしてくださる。それなのに、私たちはなぜ神に信頼しないのか。神の教えに忠実に従うことの条件に、神はご自分の子らに尊い約束を与えておられる。神に取り除くことのできない重荷はなく、神に追い払うことのできない闇はない。……

「私たちは自分自身に目を注ぐべきではない。自分自身の不完全さについて考えれば考えるほど、それらに勝利する力は弱まる」(『今日の光——キリストを知るために』2020年8月6日)。

話し合いのための質問

- ① あなたの祈りがかなえられた最も輝かしい例を、いくつか思い浮かべてください。それらの祈りは、理解を超えた神の平和を体験するのに、いかに役立ちましたか。かなえられなかった祈りについては、どうですか。それでも約束された平和を体験するには、どうしたらよいでしょうか。
- ② フィリピ(ピリピ)4:8との関連で、あなたは何を考えることに時間を費やしていますか。あなたが考えることは、あなたの信仰を強め、主と共に歩むことに、どれほど役立っているでしょうか。

- ③ 金曜日の最後の引用文について、話し合ってください。「自分自身の不完全さについて考えれば考えるほど、それらに勝利する力は弱まる」という言葉の意味するところは、何でしょうか。勝利するための鍵は、何でしょうか。

52

フィリ 4:8 (新共同訳)

4:8 終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値するがあれば、それを心に留めなさい。

ピリ 4:8 (口語訳)

4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。